

## ●軍艦防波堤とは

若松区の外れに、第二次大戦後、三隻の船が防波堤代わりに沈められました。船の名は冬月・涼月・柳。冬月と涼月は台風等で壊れ、コンクリートに埋められました。姿が残るのは写真の柳だけです。コンクリートに埋められたとはいえ、冬月、涼月は、第二次大戦で戦艦大和と共に沖繩海上特攻を戦った駆逐艦です。特に涼月は大破しつつ奇跡の生還を遂げ讃えられました。勇気ある行動を偲び、今も柳を目印に、この地を訪れる人がいます。北九州市港湾局が整備しています。

現在見える写真の柳は、大正時代の駆逐艦です。第一次大戦では地中海まで遠征しました。その後退役し、第二次大戦中は長崎県佐世保港に係留され、旧制中学の練習船として軍事教練に使われていました。

## ●沖繩海上特攻のあらまし

### ↓戦艦大和



第二次大戦末期、主に戦闘機で爆弾を抱えたまま、敵艦に体当たりする戦法が取られました。特別攻撃(特攻)といいます。沖繩本島に米軍が迫った時、日本は最後の決戦をこの特攻で行いました。同時に戦艦大和はじめ、沈まずに残った軍用艦を集め沖繩方面に向かいました。冬月・涼月も大和の真横を護衛しました。事実上の役割は米軍航空機の攻撃をその身に集め、米国艦隊に対する航空特攻を少しでも、しやすくすることでした。オトリ

です。そのため大和上空を援護する航空機は無く、集中攻撃を受けました。これが沖繩海上特攻でした。大和も、周囲を守っていた護衛艦も多くが沈み、大破し、帰還できた船は冬月、涼月などわずかでした。涼月はほぼ沈没寸前状態のまま、乗組員の懸命の努力で奇跡の生還を遂げました。そして後世にこの事実を伝えてくれました。また強力な兵器が一部残っており、一度だけですが、佐世保を守りました。特攻命令のままに沈んでしまっただけで済んだことでした。

### ↓軍艦防波堤 柳



## ●なぜ若松に軍艦防波堤があるか

洞海湾の出口若松側は、今も風力発電所が示すように、年中強い風が吹き荒れています。このため洞海湾内にも大波が入り港が使えず困っていました。戦後旧海軍の船を防波堤代わりに沈める計画が国会で持ち上がり実現しました。同様の防波堤は日本各地にいくつかありましたが、今、鉄の艦型が残るのは若松だけです。

## ●涼月 若松の飲み水へ貢献

2008年12月29日、軍艦防波堤のある若松は大断水しました。若松東部地区は、送水管(幹となる巨大な水道管)1本で水

道水を送っていました。これが老朽化のため破裂したのです。破裂箇所の先すべての水が止まり、数万人が給水車に頼りました。他の地域では送水管はほとんど予備に2本ありましたが、若松には1本だけ。予備送水管がありませんでした。悲願の2本目の送水管は、沈埋トンネルに組み込まれ、対岸の戸畑から送水する計画でした。断水事故から数年後ついに開通し、大断水の不安がなくなりました。ところでこの沈埋トンネル組立工事、実はコンクリートに埋まる涼月の真上を通過して行われました。人々の血と汗と肉と命がしみこんだ、かつての最新鋭兵器が、朽ちてなお祖国の生活を地下で支えた貢献に心より感謝します。

軍艦防波堤連絡会 <http://suzutsukimamore.web.fc2.com/index.html>



←軍艦防波堤三艦慰霊碑(若松区高塔山忠霊塔左)は、故石橋良男氏(若松区)らが尽力し、北九州市によって建立されました。石橋良男氏は、特攻兵器、人間魚雷回天の指導教官でした。海上特攻から戻った涼月・冬月そして柳に大きな思いを持たれていたと推察します。石橋氏の意志により、石橋氏自筆資料を閲覧出来ます。パソコンかタブレットでご覧下さい。軍艦防波堤関係資料

<http://maccha777.gozaru.jp/gun-siryo.html>



↓駆逐艦冬月 ↑涼月 両方共今は埋もれて見えない

